

本覚寺々報

巻頭言

住職 波多野 真公

第33号
一発行日—
令和4年2月5日



親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年

慶讃法要

令和五年より巖修

蓮如上人『疫癘えきれいの御文章』には、

「近頃、たいそう多くの人が伝染病にかかって亡くなっております。

これは、決して伝染病によって始めて死ぬのではなく、生まれたときから定まっていることなのです。さほど深く驚くべきことではありません。

そうではあります、今の時分にあたって死去しますと、きつと伝染病によって死んだに違いないというように人はみな思うもので、これももつともなことでありましょう。このようになわたくしたちだからこそ、阿彌陀如来は救わずにはおれぬと仰せられたのです。この阿彌陀の勅命があるからには、いよいよ阿彌陀仏を深くおたのみ申し上げて、極楽に往

生するに違いないと思いを定め、一心一向に阿彌陀を尊び、疑うところを持つてはなりません」と、このように私たちの命のありようと阿彌陀様に願われ、お浄土へ往生させていただく身であることを示しておられます。

阿彌陀様のお心は物体として目の前にある訳ではありませんが、私たちの心が目に見えなくても存在しているのと同じく、そのおはたらしは間違いなく届いているのです。そのことをお忘れなきよう、このコロナ禍においてしっかりと阿彌陀様と共に歩む人生、感謝申させていただく人生を歩ませていただきますよう。

合掌



二〇二三年(令和五年)年にお迎えいたします親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要は、親鸞聖人の説き示して下さった浄土真宗の教えに出遇うことがなければ、今の私はあり得なかったという聖人への感謝と、その教えに出遇えたことの喜びを込めて、聖人のご誕生を祝い、『立教開宗』に感謝する法要です。

御本山が出された「趣意書」の中に、「そもそも慶讃法要は、「法縁」によって同じ道を歩む人たちが繋がる喜びを再確認し、実感する場です。今回の慶讃法要は、特に若い人や、これまで仏教や浄土真宗の教えにあまり親しみのなかった方々へ新鮮なメッセージを送る絶好の機会にしなければなりません。そこにもまた、今回のような大きな法要を営む意義があります」とありました。宗教離れという言葉が流行りだして数十年、高齢化が進む中で今回の新型コロナウイルスの感染拡大が心配されますが、それでもこの法要がお寺と若い世代を繋ぎとめる「法縁」になることを念じます。当山では令和五年四月十二日(水)に福井組での団体参拝を予定しております。定員四〇名となっておりますので、このご縁に皆様お誘い合わせの上、どうぞご参加下さいませ。

花蓮の会

四月十日

『得至蓮華蔵世界』
とくしれんげぞうせかい

即證真如法性身そくしょうしんによほつしやうじん（正信偈）

（阿弥陀仏の浄土に往生すれば、ただちに真如をさとした身となる）

今年も蓮が綺麗な花を咲かせてくれました。根を下ろし泥水の中にもこそ咲く蓮華のように、世の中がどんなに忙しく移り変わっていくなかでも力強く生き抜く勇気を与えてくれているようです。蓮華蔵世界とは蓮華のようにきよらかな仏の世界なのです。

今年の植替えは四月九日午前九時から予定しております。お手伝いをお待ちしております。



初参式

六月十三日

「初参式」とは、新たないのちの誕生を仏さまにご報告し、ご両親がそれぞれに、母、父とさせていたただいたこの尊いご縁を一緒によるこぼ



せていただく大切な法要です。『讃仏偈』という短いお経をお勤めした後、稚さまよりご法話をいただきました。赤ちゃんのすこやかな成長はみんなの願いです。本年度は三組の赤ちゃんがお参り下さいました。

城戸内 菜月ちゃん 福井
田中 美琴ちゃん 鯖江
坂 茉玲ちゃん 勝山

永代経開闢法要

かいびやく

七月十五日

祖父母、父母、子、孫と長い年月を経てもいのちを繋ぐ糸は永遠に続いてほしい。永代経法要は門信徒の方々によるご懇志によってお寺が護持され、お念仏のみ教えが永代にわたって受け継がれていく法要です。今を生きる私たちが法要をご縁として、仏恩報謝の心を表すことで、その心はやがて子や孫に受け継がれ、み教えを聞き広めるご縁となり

ます。お念仏を大切にされる方々の思いが永代経法要なのです。今年も縮小してのお勤めでしたが、ご遺族をはじめ約五、六十名の方がお参りくださいました。



・永代経、報恩講 LIVE 配信しています

ホームページ、Facebook で視聴できます

・お御堂内無料 Wi-Fi

SSID : hongakuji, hongakuji-2

PASS : hon632055

お手持ちのスマホのアプリ

「LINE」「ZOOM」「Skype」などを利用して
離れているご家族と一緒に参りましょう
お寺参りのご法事などでご活用ください

報恩講

十月六日

「報恩講」は阿弥陀如来の本願のおこころを明らかにしてください。た宗祖親鸞聖人のご遺徳を偲び、そのご恩に感謝の思いからお勤めされるもっとも大切な法要です。「報恩講」はお寺でお勤めされるだけでなく、古くから広くご門徒の家庭でもお勤めされてきました。地方によっては、「親の法事はもちろん大切だけど、報恩講はもっと大切」と言われるほどだそうです。あるお家へ報恩講廻りに行った時のこと。そこにご婦人が別院で「一年の計は報恩講にあり」という言葉を聞いてきたんだと教えてくださいました。我々真宗門徒は何よりも報恩講をお勤めすることが肝要なのだとあらためて気づかされました。

坊城家伝来黒仏様
加賀より御動座

坊城家は藤原氏の家系の支流にあたる公家・華族です。黒仏様につ



いては、先々代昭堅御前が次の通り書き残されています。「十七代本証は男子に恵まれず京都の公卿、坊城大納言より迎えたのが広善である。その坊城家のお蔵の中にどんな因縁か知らないが、親鸞聖人の座像が伝わっていた。広善が本覚寺入りをなすに当たって、真宗寺院へ入寺するのであれば、この像はまことにふさわしいともたらされたものである」それ以来黒仏様は加賀門徒中のお預りとなり、加賀各地を廻って御

開帳されたと伝わっています。村々を御動座の折は、のぼりを立てて庭儀をしながら移動され、それは賑やかなことだったということです。先の太平洋戦争のころからは福井と加賀の境、今は廃村になりましたが大内村の宮本家に長い間止まっていたのを平成九年より下谷の蓮如堂にご安置、この度、百数十年振りに本坊の方へ帰られたということになります。ご門徒さんのところにお参りをさせていただくと、お仏壇の御本尊に向かって右の脇掛け様に坊城家伝来と書かれた黒仏様をお掛けしてあるお家が特に坂井郡、吉



・ホームページのご案内 <http://hongakuji.gionsyouja.com/>



パソコン用



モバイル用

・Facebook「本覚寺波多野」「和田山 本覚寺」



本覚寺波多野



和田山 本覚寺



田郡などに多く残っています。ご家庭のお仏壇一度たしかめてみてください。奇しくも広善老師の一〇〇回忌も近く、御動座と一〇〇回忌法要合わせてお勤め出来れば良いと思っております。コロナも落ち着いて。

ご門徒さんからのお便り

勝山市 坂 利子

本覚寺々報を読ませていただきました。吉崎御坊の念力門のことが載っていました。懐かしくなりました。実父が青年の頃、吉崎御坊まで引張ってきたそうです。名前もちゃんと刻まれています。当時の新聞が実家にありましたが昭和四十五年に家を建て直しましたので、残っているかどうかはわかりません。祖母が信心深い人で、お寺はよく参っていました。祖母の勧めで引張りに行ったと聞いています。

念力門は私たち家族の誇りでもあります。実父が生きていると満九十五歳になります。念力門は永久にあそこに立っていて欲しいと願っています。お参りして父の名前と遇えるのが楽しみの一つでもあります。



○福井吉崎「念力門」の話

一九四八年福井大地震の翌年、西本願寺は戦後都市計画の一環で北の総門を取り壊す話が出ていた。通称「天狗門」と呼ばれ、一五九一年(天正十九年)に豊臣秀吉が西本願寺に寄進したものである。

震災により、吉崎御坊の麓にあった山門が倒壊したため、この天狗門を吉崎別院に移築することが決まる。集まった門徒の数一〇〇余名、解体された天狗門を荷車十六両に

積み込み、「吉崎念仏報恩団」と名付けられ、歩いて京都の西本願寺から福井の吉崎別院まで運びました。運ぶ者も見送る者も「なんまんだぶなんまんだぶ」とお念仏を称えながら一歩一歩足を進めたと聞いています。



《蓮如上人の伝道に学ぶ》

吉崎御坊に深い縁がある蓮如上人は、その巧みな伝道教化により、本願寺教団を飛躍的に拡大させたことで知られ、その伝道の中核にあ

ったものが、浄土真宗の教義を和語で分かりやすく書き記した「御文章」です。その内容を見てみると、「たすけたまへとたのむ」の語が繰り返し用いられていることがわかります。すると阿弥陀仏のご本願(他力本願)を信じ、報恩感謝の思いから称えるものがお念仏であるのに、これでは「たすけて下さい」とお願いしなければならぬのかと勘違いする人も多いかもしれません。当時の「たのむ」の語義は現在のような依頼の意味はなく、「あてにする・まかせる」の意味であり、「たすけたまへ」にも、「相手の願いを受け入れる」という意味が含まれることから、阿弥陀仏の「我にまかせよ必ず救う」という願いに対して「おまかせしましょう」という意味で蓮如上人は「たすけたまへ」に「たのむ」の語を付けられたのです。このように「たすけたまへとたのむ」には分かりやすくもあり、誤解されやすい表現がなされているようです。



寺だより

子どもの電話相談に乗る機会があった。内容は典型的なネット詐欺。見知らぬ人とやりとりするうち金銭を要求され、当日中にお金を振り込まなければ警察に行くと言われ、通報してブロック、それで大丈夫、絶対に振り込みではならない、説明するがなかなか納得してもらえず、結局一時間半話しこんでしまった。

感じたのは今の子は山ほどの情報を持っていて（現に学校でネット詐欺の講習を受けている）「知ってはいる」けど「理解してない」のだ。情報が漫然と点や線で混在し主軸となるものがない。取捨選択ができないのだ。ある心理学者が言っていたが、選択肢が多いほど人は幸福感が低いのだそうだが、今の子は恵まれているようで不幸なのかもしれない。

「警察」という言葉にも過剰反応しているようだった。警察に話が多くと自分にペナルティがつく、将来がだめになるとまで話が飛躍した。守ってくれるはずの警察までが自分を罰する側と取る。思えば今の子どもたちは生まれた時から自己責任で生きよと言われてきたのではないか。

ある経済学者が大学の授業で「今の貧困は自己責任ではない。社会構造の問題なのだ。」と伝えたところ学生たちは驚いて「全部自分の責任だと思っていた。気が楽になった」と安堵したそう。新自由主義という空気の中で、守られるべき存在の子供たちが自分の責任で生きよと刷り込まれている。

ふと思う。自己責任とは、これは『自力』ということか？何もかも自分で抱え込み責任を取るのは無理だ。人は持ちつ持たれつ、おかげさまの人生なのだ。その人生を、大丈夫、そのままでもいいよ、と丸抱えをしてくださるのが阿弥陀様だ。守ってくれる親がいる、支えてくれる上司がいるように、私の人生には最後の最後に引き受けてくださる阿弥陀様がいる。この存在があるから私は心安らかに人生を送ることがができる。このはたらきを『他力』という。

古儀茶道藪内流

藪内家は茶家として現在十四代を数え、四百余年の歴史を伝えています。御本山とは深い縁があり三代良如上人の頃より今日に至るまで、お正月には御本山への献茶がなされており、西別院報恩講では協賛茶席を設け、約三百名のお茶を接待しています。今年の本覚寺初釜は縮小されつつも賑やかに執り行われ、揃って新年を寿ぎました。本覚寺お茶教室は毎週二十名程の方がお稽古に励んでおられます。ただ作法や所作を習得するだけでは



く心の豊かさを学ぶ場でもあります。



令和四年 年回法要表

一	周忌	令和三年歿
三	回忌	令和二年歿
七	回忌	平成二十八年歿
十三	回忌	平成二十二年歿
十七	回忌	平成十八年歿
※二十三	回忌	平成十二年歿
二十五	回忌	平成十年歿
※二十七	回忌	平成八年歿
三十三	回忌	平成二年歿
五十	回忌	昭和四十八年歿

※印は地区によってされないところもあります

○令和四年の年回法要表です。

お仏壇の過去帳・御位牌でご確認下さい。年忌申込の際は、

氏名・住所・電話番号

年回の種類・法名

を必ずお知らせ下さい。

御上(御前・稚姫)ご招待、もしくは法務員のみのお招きもお願いいたします。

○過去帳・御位牌の法名記入承ります。

○お念珠修理承ります。紐が切れて使えなくなっているお念珠がございましたらお気軽にお申し付けください。

僧侶のつぶやき

最近法務をしていて一番シヨックを受けたもの、驚いたことは葬儀の形態が増えていることです。一般葬、家族葬、密葬、直葬と色々ある中で最近では邸宅葬というものがあるそうです。これは、

「会場を深夜・葬儀の二日間貸し切り、故人とのお別れの時間を自宅の様に落ち着いた雰囲気の中でお過ごしただけの新しいタイプ

のご葬儀プラン」だそうです。なるほど、遺族の方や、もしかすると故人の思いを尊重してその様な葬儀形態ができたのかもしれませんが。ある葬儀に行った時のことです。その会場はまさに邸宅葬もしくは密葬を行うものとして建てられたようです。二か所の部屋に分かれており、衝立には何やらこの会場のコンセプトが書かれていました。「まるで高級ホテルに泊まっているみたい」係の方に控え間はどちらですかと尋ねると申し訳なさそうにこちらですと案内された部屋は、控え間と呼ばれるようなものではなく、玄関脇の小さな物置のような一画でした。昨今家族葬専用の会場が多く建てら

れています。が、なんだかどこも僧侶の控え間が狭く造られているように思います。

逆に嬉しいな、有難いなと思うこともあります。御本山の「念仏の声を世界に子や孫に」というスローガンがあります。あるお家のご主人は生前中、奥さまのご命日のお参りや報恩講参りと仏事を大切にしてこられました。息子さん夫婦とのお孫さんは、一緒にお仏壇の前でちゃんとお念珠を手にお参りしていました。そのおじいちゃんが亡くなり、七日参りのお勤めに行くと、自らお念珠を取って自分の分とお父さんお母さんの分も渡していたのです。

いつも一緒にお参りしていたおじいちゃんは今もういないけれど、お念仏がちゃんと子や孫に伝わっているんだと、そこに明るい未来が見えたような気がしました。家族みんなが同じ方向に歩んでいる。大切な方が亡くなるという悲しみの中で、それでも前を向いて進んでいこうとする手助けを私がしようなんておこがましいですね。それはすでにご家庭の中で築かれているんだと、嬉しい気持ちになりました。

(道場記)

法務員紹介

宮口 昌之 (51)



影が薄いのか、存在感が足りないのか。確かに眼鏡を替えました、髪型も変えまし

た、白髪も増えました、マスクもはずせません。本覚寺にお世話になって今年で足掛け二十九年。未だに「初めてけの?」と問われることがしばしば。そろそろ名前も顔も覚えてもらえてもよろしいかと思いますが…。自分を主張しすぎないようにと心掛けてはいるので喜ばしい事でもあるのですが、チョイ寂しい。それでも目指すは「縁の下の力持ち」これからも日々精進してまいります。どうぞ引き続き「お育て」をよろしくお願いいたします。



嶋田 順治 (71)



「敬愛」

昨今は、愛はあるが敬がないとよく言われます。残り少ないと思われる法務員生

活を通して、仏法、南無阿弥陀仏のこころを心得分け合う中で「敬いの気持ち」が互いに感じられるように過ごしたいと思います。普段の言葉から想像できないわと思う方もおられるかもしれないですが、それはそれと超えていければ幸い中の幸いです。

道場 晴久 (37)



法務員として

十五年ほど経ったので、首がよくここまで首が繋がったなという心境ですが、おかげさまでようやく公私ともにもまともな生活を送れるようになりました。かと言って多少は失敗をしでかすこともあります、周りの方々に

支えられて今に至っています。自坊

(小浜)へは当分帰るつもりはありませんが、一応後継ぎの身ですので、ゆくゆくは住職としてたまにちょこちょこっと帰りながら、あとはこちらを優先的に勤めているという写真を勝手に描いています。どうぞこれからもよろしくお願いします。

新法務員

高岸 徳風 (40)



令和三年四月

一日より本覚寺法務員となりました。出身は福井

県越前市 (旧今

立地区)です。平成十七年六月三十日に、東京都の大学を卒業後、主にサービスのアルバイト、契約社員、正社員の職業を経て、令和二年度に京都府にある僧侶養成学校である中央仏教学院本科に入学、卒業しました。得度(僧侶資格)は令和二年十月十五日、住職資格である教

師は令和三年三月三十一日に御本山より授与されました。本覚寺での法務、寺務、作務にあたる心構えとしては、「ただ念仏」を申しながら、本覚寺を輝かせるために、今、私に何ができるかを常に考え、ひいては「自他ともに心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献」したいと考えております。不束者ではございますが、何卒よろしく願い申し上げます。南無阿弥陀仏。

この他、数名の非常勤法務員が勤めております。その中に今年から紅一点、女性の法務員が入りました。お参りに寄せていただいた際は、我々も含め、お育てくださいますようよろしくお願いいたします。



令和4年 本覚寺行事予定

◆修正会	一月一日	流杯の儀
◇御年頭	一月一日・二日	
◆御正忌	一月十六日	午後二時
◇門徒大会	中止	
◆仏壮・仏婦合同報恩講	中止	書面総会
◇勝山支坊太子講	三月三十一日	
◆花蓮の会	四月九日(予定)	午前九時より蓮植替え
◇花まつり	四月十日(予定)	饗覧・幼稚覧・小雀・齋島
◆念仏奉仕団	検討中	
◇懇親ゴルフコンペ	検討中	
◆降誕会・初参式	六月十二日(予定)	別途申込
◇勝山支坊永代経	六月三十日	
◆清掃奉仕	永代経前	仏婦
◇掛所盆参り	七月十四日	十八時より読経
◆永代経	七月十五日・十六日	開闢法要
◇納涼法話会	検討中	
◆清掃奉仕	報恩講前	仏婦
◇報恩講	十月四～六日	
◆勝山支坊報恩講	十月二十一日	
◇除夜会	十二月三十一日	二十三時四十分頃より

感謝録

お供え

(敬称略)

- 菓子 塚谷 徹夫 北四ツ居
- 梨 鹿野 啓信 小塩辻
- 果物 今宮 忠夫 乙坂今北
- 酒 藤田 昭博 下浄法寺
- 米 朝田 勇次 猪野口
- 青木 保憲 春江
- 野澤 雄一 東二ツ屋
- 水上 清雄 北新在家
- 清水 勲 大月
- 与佐岡 賢治 鯖江
- 田中 克治 重立
- 山本 清勝 笹尾
- 斎藤 治一 妙金島
- 竹中 哲男 菅谷
- 富田 幸二 上北野
- 珈琲 横田 信子 瀬領
- 蠟燭 齊川 嘉長 光明寺
- 写真 高島 宣夫 足羽
- 蓮植替え 仏教壮年会、仏教婦人会
- 除夜会手伝い 仏教壮年会、仏教婦人会
- 帳場その他お手伝い 仏教壮年会、仏教婦人会

編集後記

おみがき
年末 末政御同行

厚く御礼申し上げます。
ありがとうございました。

人に頼れない人の特徴の一つとして、「周囲への信頼がない」というのがあるそうです。失敗を繰り返す、意固地になって素直になれず、上手くコミュニケーションを取れずにいた頃の自分を悔やんでいます。今も変わっていないのかもしれないが、周囲への信頼を少しずつでも取り戻せればと思う今日この頃です。行事も少なく編集者泣かせの年でしたが、何とか形になったように思います。(道場)

ここに第三十三号をお届けします。皆様方の寺報原稿お待ちしております。写真や絵、俳句などでも結構です。どうぞご投稿下さい。

発行所 浄土真宗本願寺派
和田山 本覚寺